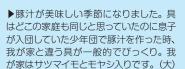
## 人のうごき

(平成28年9月末)

人口 87,498 (-75) 世帯 46,735 (-30) ( )は前月比

国民健康保険料 6期 後期高齢者医療保険料 6期 介護保険料 6期 11月30日までに納めましょう

# 編集後記



- ▶市民見学会に同行しました。各施設見学ではもちろんのこと、バスで次の目的地に移動中、観光ボランティアガイドさんによる室蘭ガイドに感服。広報職員として多くのことを学ぶことができました。(兄)
- ▶中央ふ頭に入港した2隻の練習船の撮影で測量山展望台へ。今回は車で登ってしまいましたが、道路沿いの徐々に進む紅葉がきれいでした。健康のためにも、機会があれば歩いて登りたいと思います。(井)
- ▶風邪の季節。日頃のうがい・手洗いも功を奏さず引いてしまうことも。サブリメント頼みの健康法より、無理のない運動の継続で体力をつけ、抵抗力や自然治癒力を高めましょう。健康ページをご覧に。(ゴ)
- ▶市の広報動画の監督をしてくれた坪川さんが室蘭で撮影している映画の第1部が完成した。試写会は満席で、\*地元の映画"への期待が大きいなと感じた。坪川テイストの広報動画もぜひご覧ください。(t)

# 職 むろらん

2016年11月1日 No.1028

#### ■今月の表紙

「さかなの港町同窓会」で行われた毎年人気のサケのつかみ取り。プールに足を入れた参加者からは「寒い」「冷たい」と声が飛び交います。それでもいざ始まると、狙いを定めてサケを豪快につかみ上げ、寒さを忘れて楽しんでいました。

#### ■発行・編集

北海道室蘭市総務部広報課

- 051-8511 室蘭市幸町1-2
- ☎ 0143-25-2193
- **M** 0143-25-2835
- shimintaiwa@city.muroran.lg.jp
- http://www.city.muroran.lg.jp/
- ★ http://twitter.com/muroran\_city
  ご意見・ご感想をお寄せください。
- ■印刷 北海印刷株式会社



## 世代を超えた気付きの共有の場を

を創る会《などの市民活保存活用会》や、蘭西地 今までの経験を生かし、市の中進み広域連携が必要になる中で、 と外をつなぐ役割を担っていきた 熱く語ってくれた。 懸命で、 わっている。 たのは初めてだった」という。 自 身も、むろらん回 そういう人たちに出 これから人口 民活動にも携 地 年建 [減少が 造

移住のきっかけは、室蘭の人の温かさだったと話す髙橋さん。の温かさだったと話す髙橋さん。の温かさだったがいる。みんながり、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化があり、それを大り、食の文化がいる。

ルなソファーとテーブルもあ

月にオープンしたラウンジに

広いビジョンを持つ人を育てていき を提供したい」という開業を決意 生まれる気付きを共有する場所 ね」と高 わった、学び舎、だ。「塾のように見 どもから大人までが集う一風 した思いが詰まっている。 えて少し違う。表現に困 一かし 今後は自身の海外での経 ...わず、人と人との交流を通 国際的な視点でも 有 橋さんは笑うが、 して、 髙橋さんは社会と向 柔軟な視点で、 りますよ 世 代を

## 髙橋 慎吾 さん

網走市出身。31歳。小樽の大学を卒業後、金融機関に就職し、平成24年から3年間室蘭に勤務。転勤で一度は室蘭を離れたが、その後退職し室蘭に移住。ことし1月に「共生舎・スタディラウンジむろらん」を輪西町にオープンした。



12人いる従業員は全員女性で、半数が子育て中。継続して働いてほしいとの思いで、子供が3歳になるまで、独自に子育て支援援助金を支給し、従業員が働きやすい環境を整えている。

また、子育て情報誌「こらん」の配布や 北海道のどさんこ・子育て特典制度にも 協賛している。

住所 御前水町1-13-22 ☎23-7765 定休日 火曜日

# 応援団に促進込めしました。



- コスメティックマルヤマ
- (株) 西野製作所
- 上村孝吉 (個人、読み聞かせ)

(9月30日現在)・真田商店(酒・米販売)

どさんこ・子育て特典制度のサービス 内容は、17ページに掲載しています。



子育て応援団に登録した 団体などを紹介します。

### 地域に恩返しを

御前水町に移転して4年が過ぎたモンパリ。「広い駐車場は、運転が苦手な女性でも安心して駐車できますよ」と話す店長の佐藤さんは、自身も子育て中で、どさんこ・子育て特典制度のカードを持っています。

しかし、制度開始当初は協賛店が少なく寂しく感じたので、子育て応援団の登録を考えました。アットホームな店舗を目指していたこともあり、子どもに声掛けやお菓子のプレゼントなどは登録前から行っていました。

10月には店内で初めて、体に優しい食をテーマにした講座を開催。「良いと思ったことを皆さんに伝えて、少しでも地域に恩返ししたい」という言葉には、ぬくもりのある店舗と同様に、優しい気持ちがあふれていました。